

## 令和4年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

「自主」「誠実」「創造」の校訓を旨とし、これからの社会に貢献できる深い教養と豊かな人間性を備え、主体的に物事に挑戦する姿勢を持ち続ける知・徳・体のバランスの取れた人間力のある人材を育成する。

## 【生徒に育みたい力】

- ・志と夢を持ち、将来の自分を想像する力
- ・社会や自身の課題に真摯に向き合い、主体性を持って考える力
- ・努力を継続し、挑戦し続ける意欲と行動力
- ・人権を尊重し、多様性を理解して繋がる力

## 2 中期的目標

## 1 生徒の未来を拓く「確かな学力」の育成

(1) 知識・技能の習得に加えて、思考力・判断力・表現力と主体性・多様性・協働性を含んだ「確かな学力」の定着をめざす。

ア 主体的・対話的で深い学びを実現する授業を展開する。

※ 学校教育自己診断の「授業評価」に関する項目において、令和6年度まで70%以上の肯定率を維持する。

(「授業のわかりやすさ」R01:66.1%, R02:67.3%, R3:74.6%)

イ ・1人1台端末を活用し、個別最適化された学びを生徒一人ひとりにおこなう。

・ICT機器及びWi-Fi環境が整備された全HR教室で、双方向型の授業を展開する。

(令和2年度学校経営推進費事業「双方化型授業の活性化と自学自習促進プロジェクト -ICTツールを活用した生徒の主体性の育成-)

・教育活動全般を通じて、生徒のICT活用能力を高める取組みを推進する。各講座でのICT機器等の活用を促進し、令和6年度まで実施授業の比率を上昇させ続ける。(R01:75.5%, R02:73.1%, R03:85.7%)3月実施予定

ウ 英語専門コースを中心に、より高いレベルでの英語4技能習得をめざす。(スピーキング指導の充実)

※ 第1学年及び第2学年において外部試験等を利用した4技能習得及びその状況を客観的に把握 実力判定テストにおいてもリスニングテストなどを導入 英語コースにおける「授業満足度」の継続的上昇。(当該科目授業アンケートR01:3.38, R02:3.1, R03:3.1)

英語検定合格者2級 2名 準2級 6名 3級3名

エ 津田高版の探究活動(探究の時間)を確立し充実する。

(2) 課外学習など自学自習を促進し、校内外での学習習慣の確立をめざす。

ア 放課後学習や週末課題を実施し、知識・技能の一層の定着を図る。

※ 2年生での自主学習の平均時間を、令和6年度までに1時間以上とする。(R01:0.36H, R02:0.42H, R03:0.40H)

イ 各種検定試験の受験を促進し、資格取得による学習への動機づけを図る。

※ 漢字・数学・情報・英語の資格検定の校内実施と受験生徒の増加に努める。

(3) キャリア教育の充実と希望の進路実現のための支援を充実する。

ア 生徒が目標を持ち進学や就職に取り組めるよう、将来に向けてのキャリア展望を促進する。

※ 学校教育自己診断の「進路指導」に関する項目において、令和6年度まで85%以上の肯定率を維持する。(R01:85.6%, R02:83.1%, R03:84.4%)

イ 最新の情報収集に基づく進路種別の生徒・保護者向け説明会の充実を図る。

※ 各学年で生徒・保護者対象進路説明会を実施する。

ウ 進路指導セクションと担任団の連携を強化し、サポート体制を確立する。

## 2 力強く社会を生きるための「豊かな人間力」の育成

(1) 生徒理解に基づく指導の促進と安全安心な学校生活を支援する体制を確立する。

ア 生徒理解の指導により、生徒の自律性と自己肯定感の向上を図る。

※ 年間遅刻者数を令和6年度まで800件以下に維持する。(R01:764件, R02:1049件, R03:853件)

イ 悩みや不安のある生徒が安心して学校生活を送れるよう、スクールカウンセラーなどの専門家や関係機関と連携して教育相談支援体制を充実する。

※ 学校教育自己診断(生徒)の教育相談に関する項目の肯定率を、令和6年度まで75%以上を維持する。(R01:65.2%, R02:63.0%, R03:83.5%)

ウ 学校のルールや授業規律の徹底を図り、規律ある安全安心な教育環境を確保する。

※ 学校教育自己診断(生徒)での「学校のルールを守ろうとしている」の肯定率を、令和6年度まで95%程度を維持する。

(R01:94.5%, R02:94.4%, R03:97.3%)

(2) 伝統ある学校行事(生徒会活動)や活発な部活動により主体性・協調性を育成する。

ア 生徒主体で企画・運営する学校行事を継続して促進する。

イ 部活動運営の主体性を育むためキャプテン・マネージャー会議などの充実を図る。

※ 1年生の部活動入部率を令和6年度までに80%を実現する。(R01:78%, R02:69%, R03:53%)

※ 行事や部活動に対する肯定率を、令和6年度まで80%を維持する。(R01:80.8%, R02:77.4%, R03:75.9%)

ウ 人権を尊重する教育を推進する。

(3) コミュニケーション能力の向上を図り、他者を尊重する心を育成する。

ア 「あいさつが飛び交う津田高」の伝統を継承し、あいさつ運動を促進する。

※「挨拶をするように心がけている」の肯定率を令和6年度までに90%以上にする。(R01:89.2%, R02:88.2%, R03:92.3%)

イ 国際交流活動(海外からの学校訪問受入れと希望者による短期留学派遣)を実施し、国際感覚を育成する。

※ 外国からのスタディツアーを受け入れ、希望者による短期海外派遣を実施する。

## 3 学校力、教員力の向上

(1) 継続的な授業改善への取組みを促進し教育力の向上を図る。

ア 主体的・対話的で深い学びの授業を促進する。

イ 授業等におけるICT機器の利活用スキルの向上を図る。

※「主体的・対話的な授業実施に取り組んでいる」の肯定率を、令和6年度まで70%以上を維持する。(R01:40.9%, R02:67.4%, R03:76%)

(2) 津田高の魅力発信の強化と地域連携の促進

ア 独自の学校説明会の開催と、入学者出身校を核とした中学校訪問により生徒の活動状況を広報し「行きたい津田高」をアピールする。

イ 地域コミュニティの行事や近隣の企業等のイベント等に参加し、「地域の中の津田高」を意識する。

ウ HPなど多様な情報発信ツールを活用した広報活動を強化する。

(3) 働き方改革の取組み

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年12月実施分]				学校運営協議会からの意見			
主な項目における結果 (%)				【第1回 5月27日実施】			
内 容【R4】		生徒	保護者	教員			
学校への満足度(学校は楽しい、楽しみにしている)		71.4%	80.0%	-	1, 令和4年度学校経営計画進捗状況(校長より)		
授業への評価(わかりやすい、学力がのばされている)		70.7%	68.0%	76.5%	・指導満足度の向上を図る		
進路指導に対する評価		86.5%	80.6%	88.2%	・生徒の進路実現のために、教員の授業力向上を図る。		
生徒指導に対する評価		57.8%	79.7%	88.2%	・令和4年度学校経営計画の、生徒の未来を拓く「確かな学力」の育成に力を入れる。		
学校行事、部活動に対する評価		76.4%	77.1%	58.8%	2, 令和3年度の定員割れの原因と志望者回復の要因(首席 佐藤より)		
内 容【R3】		生徒	保護者	教員	・今まで支持されていた津田高の魅力が3～4年前から、支持されなくなった。		
学校への満足度(学校は楽しい、楽しみにしている)		76.0%	72.5%	-	・外部的な要因は、中堅校の広報の場所が、コロナにより限定されてしまった。		
授業への評価(わかりやすい、学力がのばされている)		74.6%	55.9%	64.7%	・対策として、ICT 向上・英語専門コースの活性化・SNS を利用した広報活動 結果として、令和4年度に志望者数が回復した。		
進路指導に対する評価		84.4%	80.9%	76.5%	・コロナ禍の中で、進路実績をどのように上げたか。(首席 佐藤より)		
生徒指導に対する評価		52.3%	75.6%	76.5%	・学力の二極化という課題の中で、ICT である学習支援クラウドサービスを用いて、放課後の10分学習や、週末課題の配信などで、基礎学力を向上させた。		
学校行事、部活動に対する評価		75.9%	50.8%	64.7%	・学力の上位層には、大学進学用の勉強動画を配信したり、個別課題に取り組みせたりして、指導の個別最適化を行った。		
【分析】				3, 具体的な ICT の活用方法(首席 橘より)			
○学習指導等				・タブレットと アカウントを全員に配布した			
授業への評価は、生徒 70.7%(74.6%) と低下したが、保護者 68.0% (55.9%)、教員 76.5% (64.7%) は上昇した。主体的・能動的な学習手法は、時に騒がしく感じることもあり、少なからず影響している。出席停止中のリモート授業をはじめ、学習環境整備を一層進め、来年度に向け、授業規律の徹底、研修、公開授業積極的に取り組み、授業力の向上を図っていく。				・学習支援クラウドサービスで宿題・課題配信や学年の諸連絡を行う。			
○進路指導等				・すべての普通教室に、プロジェクターを取り付け、書き込める電子黒板を設置。			
進路指導の評価は、生徒 86.5% (84.4%)、保護者 80.6%(80.9%)、教員 88.2%(76.5%)といずれも、高いポイント数を維持している。進路指導部が中心となり、組織的・計画的な生徒、保護者へのきめ細かい指導及び情報提供ができたことが高評価につながっていると考えられる。				・コロナ陽性者のために、タブレットを用いて中継配信を行った。			
○生徒指導				4, ご意見ご質問			
生徒指導の評価は、生徒 57.8%(52.3%)、保護者 79.7%(75.6%)、教員 88.2%(76.5%)、全てのポイント数が上昇した。生徒に対し寄り添う姿勢とカウンセリングマインドをもって接し、生徒の納得する指導を組織的に取り組もうとしていることが要因と思われる。しかし生徒評価(50%台)の数値は決して高いものではなくさらなる要因を分析し、改善を図る必要がある。				・ICT の活用方法について、中学・高校がお互いに参考にできるような情報交換を行っていく。→昨年度は、韓国とオンライン国際交流を行った。			
○学校行事、部活動				・ICT のデメリットとして、「書く力」「書く機会の減少」が挙げられる。			
生徒 76.4%(75.9%)、保護者 77.1%(50.8%)ともに昨年度を上回った。特に、保護者のポイント数は20ポイント以上も上昇した。感染症対策をしっかりと講じながら体育祭、文化祭、遠足等、平時の学校行事を行うことができたことが大きい。				・地域コミュニティの行事や近隣の企業等のイベントに参加し、地域とのつながりを強化していくことが必要。			
【まとめ】				【第2回 10月21日実施】			
新型コロナウイルスの影響はあったが、授業、行事、部活動で平時の活動に少しずつ戻ることができた。学校への満足度は生徒 71.4%(76.0%)、保護者 80.0%(72.5%)と概ね高いポイント数であったが、生徒のポイント数は低下した。授業評価の減少が一つの要因と考えられるが、更なる要因を分析し、改善を図る必要があると考えている。次年度も安全・安心を土台に、納得・満足を感じてもらえる学校運営をめざす。				1「双方向型の授業の活性化と自学自習の促進プロジェクト」について			
				ICT ツールを活用した生徒の主体性育成について、資料の説明。			
				2 学校の様子			
				生徒指導部より			
				・コロナ禍の中、この2年間は部活動が低迷している。中学生時代に大きな制限があり、高校入学後も部活動を続けたいという意欲がそがれてしまったのかと思う。			
				・生徒指導上の問題はほとんど生起していない。落ち着いて学校生活を送ることができている。			
				3 令和5年度使用教科書採択の結果			
				承認。			
				4 スクール・ミッション案の策定			
				現在検討作成中。後日、書面にてご意見を伺いたい。			
				5 授業見学			
				2年生英語表現…プロジェクター投影、生徒端末を使用			
				3年生現代文…従前の板書、音読、質疑応答でのやりとり			
				【第3回 令和5年2月17日実施】			
				『令和4年度の学校評価について説明(教頭)』			
				・教育自己診断の結果、生徒の満足度が下がり、保護者の満足度が上がっている。			
				・保護者は体育祭、文化祭などの学校行事が行うことができ、満足度が上がったと思われる。			
				・遅刻回数は 768 件(1/11 現在)であった。			
				・ケース会議やカウンセリングなど課題を抱えた生徒にきめこまやかに対応してきた。			
				生徒はどんな悩みが多いのか。友人関係が多い教育相談係りが組織的に対応している。			
				・広報活動で中学校訪問の回数を増やしている。			
				『進路』			
				学校斡旋の就職希望者はすべて就職先が決まった。進学 希望者では指定校入試で学校を決める生徒が多い。一般入試も頑張っている。			
				・学習支援クラウドサービスを導入。週末課題、放課後学習で基礎学力の充実。			
				『生徒指導につて説明』			
				・「遅刻指導に力を入れている。昨年度よりやや増加			
				『その他』			
				・ICT 活用の△の理由は。			
				目標の月一回研修ができていない。一定の技量が教員に身につけてきている。			
				職員会議では毎回、情報だよりを出し、ICT 技術の共有をおこなっている			
				・生徒の満足度の低下原因は何か			
				次年度アンケートの項目で理由を聞く。			

## 府立枚方津田高等学校

- |  |   |
|--|---|
|  | <ul style="list-style-type: none"><li>・生徒指導、授業評価の肯定的評価の低下の理由は何か<br/>生徒指導の意義をしっかり伝えていく。また生徒の意見をしっかり聞くことも大事。携帯使用ルールに対する不満。学校説明会では必ず中学生に伝えている。<br/>『令和5年度の学校経営計画を説明』</li><li>・若干の変更点を説明<ul style="list-style-type: none"><li>令和2年度学校経営推進費事業は終了のため削除。</li><li>振り返り期間の設定は、定着したため削除</li><li>ケース会議の回数、研修の回数を評価指標から削除。</li><li>資格試験についての指標を、実施回数ではなく、合格者数に変更</li><li>部活動体験の回数を削除</li></ul></li><li>・指標を英検の実施回数から、合格者の人数にしたのはハードルを上げたのか。<br/>より意味のある指標にした</li></ul> <p>次回の会議日程 日 時 令和5年5月26日（金）15:00</p> |
|--|---|

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R3年度値]	自己評価
1 生徒の未来を拓く「確かな学力」の育成	(1) 思考力・判断力・表現力を含んだ「確かな学力」の定着	(1)	(1)	ア・イ ・教員相互の研修成果もあり、満足度は高い。 授業のわかりやすさ 70.7% (○) 主体的・対話的な学び 94.1% (○)
	ア 主体的、対話的で深い学びを実現する授業の展開	ア・「主体的な学びのある授業」のための授業改善に向けた研修などへの参加と授業見学週間の実施	アイ・自己診断「授業評価」の肯定率70%以上「授業のわかりやすさ」 [R03: 74.6%] ・主体的・対話的な学びのある授業の実施率の維持[R03:76.0%]	
	イ 1人1台端末を活用し、個別最適な学びの支援をおこなう。	イ・一人ひとりの理解の状況を把握しながら、双方向的な授業をおこなう。 ・生徒が自分の理解度に応じた自学自習を進められる環境の整備をおこなう。 ・生徒の学びの過程を保護者と共有する。 (新規に12年全生徒対象に学習アプリを導入)	ウ・授業でのICT機器の活用指導力の向上 [R03:85.7%]3月実施 ・ICT教員研修の月1回の実施 [R03: 15回] ・ICT委員会の5回以上の実施 [R03: 3回]	ウ ・活用ノウハウとその利便性が浸透してきた。88.2% (◎) ・十分な研修機会が教員のスキルは確実に上昇 今後さらに研修を重ねる。 ICT教員研修2回実施 (△) ICT委員の研修実施4回実施 (△)
	ウ ICT機器の効果的な活用	ウ・授業内外でのICT機器の活用促進。  ・ICT機器を活用した授業等の職員研修を実施する。(R2学校経営推進費事業) ・生徒の委員会であるICT委員会の講習を実施する。	エ・授業におけるスピーキングの指導割合の増加。 コミュニケーション英語の授業内でのスピーキング指導を、全英語科教員が総授業時数の半数以上をおこなう。[R03: 2/5人] ・英語専門コースの授業アンケート「授業満足度」3.4以上を維持。[R3: 3.1] ・スピーキングコンテスト等複数学年で実施 (年1回)	エ ・英語コースの魅力発信。英語での授業を積極的に実施。 スピーキング指導実施率 3/6人 (○)  ・英語専門コースの授業アンケート満足度3.0% コロナ過で活動が制限されている近年下降傾向が続く。(△)  ・スピーキングコンテスト実施状況 コロナの影響で実施できず。(△)
	エ 英語専門コースを中心に高いレベルでの4技能習得	エ・英語専門コース及び英語授業一般において、4技能伸長のための授業の改革を実施。  ・4技能をバランスよく指導する。特にスピーキング力の養成に努める。	オ・生徒アンケートによる「探究学習」の肯定率80%以上 [R03: 89%]	オ ・組織的に十分に準備をして、時間をかけて取り組んだ結果が出てきた。肯定率91.9% (◎)
	オ 津田高版探究活動の確立	オ・3年間を通じた継続性のある探究活動の構築	(2)	ア ・週末課題実施状況は8割で目標を達成したが、生徒のやる気につながる手法を検討する必要がある。(○)
	(2) 校内外での学習習慣の確立	(2)	ア・週末課題等の提出率 9割以上[R03: 7割]	イ ・2回実施。目標通り実施し、生徒の意欲につながり、欠点者数は激減。成績不振での留年無し。(○)
	ア 放課後学習・週末課題の実施	ア・毎日放課後10分間の基礎学習を実施し、毎週末には英語・数学・国語の課題を課し家庭学習(自主学习)を促進する。	イ・期末考査後の振り返り期間を年2回実施する。 期末考査後 [R03: 2回]	ウ ・ほぼ計画通り実施漢検2回、英検2回、数検1回] (○)
	イ 各種検定試験の受験促進	イ・定期考査等の振り返りの充実	ウ・年間の資格試験等の校内実施 [R03:漢検2回、英検2回、数検2回]	ア ・学年主導から分掌主導へ転換。肯定率アップ86.5% (◎)
	ウ 英語検定、漢字検定、数学検定等の対策指導を行い意識を高め、受験を促進する。	ウ・英語検定、漢字検定、数学検定等の対策指導を行い意識を高め、受験を促進する。	(3)	イ ・1年3回 2年5回 3年8回 計画通り実施し、生徒の意欲向上に結びついた。特に2年生の意識が変わってきた。進路資料の閲覧状況より。(◎)
	(3) キャリア教育の充実と希望の進路実現	(3)	ア・自己診断「進路指導」の肯定率85%以上[84.4%]	
	ア 将来に向けてのキャリア展望	ア・津田高版「キャリアパスポート」の各学年カスタマイズを充実し、生徒の進路実現に向けた取組みを促進する。	イ・進路に関する説明会を1年生2回、2年生3回、3年生5回行う。 [R03: 1年2回 2年3回 3年7回]	
イ 進路情報の収集と保護者説明会の実施	イ・多様な進路情報に対応した、生徒・保護者説明会の開催			

府立枚方津田高等学校

<p>2 力強く社会を生きるための豊かな人間力の育成</p>	<p>(1) 生徒理解に基づく指導と安全安心な学校生活を支援 ア 生徒の自律性と自己肯定感の向上</p> <p>イ 教育相談支援体制の強化</p> <p>ウ 規律ある安全安心な教育環境の確保</p> <p>(2) 学校行事や部活動による主体性、協調性の育成 ア 生徒主体で企画運営する学校行事の促進</p> <p>イ 部活動運営における主体性の育成</p> <p>ウ 人権を尊重する教育の推進</p> <p>(3) コミュニケーション能力の向上と他者を尊重する心の育成 ア あいさつ運動の促進</p> <p>イ 国際交流活動の推進</p>	<p>(1)</p> <p>ア・生徒理解に基づく指導により生徒の自律的な学校生活を確立する。</p> <p>イ・教育相談・支援教育の充実を図り、年間を通じて個別ケース検討を行ない、個に応じた合理的配慮や支援を実施する。 ・必要に応じて中学校・福祉・司法・行政などの関係機関の協力を得る。 ・教育相談・支援教育に関する事例検討等も含めた研修を実施し理解と力量を高める。 ・生徒にとって相談しやすい環境を創造する</p> <p>ウ・適切な授業規律指導により落ち着いた学習の場を維持する。 ・生徒指導において対話的な指導の推進をする。 ・教育相談・支援教育の観点を加味した適切な規律指導により生徒の規範意識を醸成する。</p> <p>(2)</p> <p>ア・生徒が主体となるよう学校行事の企画・運営を工夫し、生徒の自信と自己有用感を育む。</p> <p>イ・部活動での生徒の主体的活動を促進するためのキャプテン・マネージャー会議を月1回程度開催する。 ・中学生対象の「部活動体験会」や合同練習等の交流を推進する。</p> <p>ウ・人権文化講演会を開催する。 ・テーマ別人権課題の各学年人権HRを実施する。 ・教職員人権研修を実施する。</p> <p>(3)</p> <p>ア・「誰にでもあいさつできる津田高」をつくりだすため、集会等で挨拶の重要性を説き、あいさつ運動を行なう。</p> <p>イ・海外からの教育旅行を受け入れ異文化交流を行なう。 ・海外派遣事業の継続実施</p>	<p>(1)</p> <p>ア・年間遅刻者数を800件未満にする。 [R03:853件]</p> <p>イ・教育相談・支援教育に関するケース検討(40回以上) [R03:52回] ・関係機関連携を必要に応じた回数確実に行う [R03:延べ3回] ・教育相談・支援教育に関する研修を1回実施 [R03:0回] ・自己診断での「教育相談」の肯定率75%以上 [R03:83.5%]</p> <p>ウ・自己診断(生徒)の「学習環境」への肯定率向上 [R03:74.2%] ・自己診断(生徒)での「規範意識」の肯定率95%以上。 [R03:97.3%]</p> <p>(2)</p> <p>ア・自己診断(生徒)の学校行事及び部活動への満足度80%以上[R03:75.9%] ・年間行事予定に掲載された主要な行事をHPやSNSを用いて、すべて情報発信する。 [R03:12/12回]</p> <p>イ・キャプテン・マネージャー会議の招集 [R03:25回] ・1年生の入部率を前年度より上昇させる。 [R03:53%] ・「部活動体験会」などを1,2学期で5回以上実施。 [R03:5回] ・部活動交流に参加する中学生100名以上 [R03:39名]</p> <p>ウ・自己診断の「人権意識」の肯定率80%以上 [R03:86.8%]</p> <p>(3)</p> <p>ア・自己診断の「あいさつをしている」90%以上 [R03:92.3%] ・早朝のあいさつ運動の実施(年70日以上) [R03:85日]</p> <p>イ・教育旅行1校受入れ [R03:0校] ・海外派遣10名以上参加 [R03:0名] ・海外の高校とオンライン交流2回以上 [R03:2回]</p>	<p>ア</p> <p>・遅刻者数は微増。コロナでの登校禁止期間で生徒の基本的な生活習慣が乱れたことが要因と考えられる。1020件 (△)</p> <p>イ</p> <p>担当者、担任をはじめすべての教員がカウンセリングマインドをもって対応した。次年度以降も研修を重ね生徒に寄り添う。 ・ケース会議55回 ・関係諸機関との連携4回 ・自己診断の肯定率84.2% (◎)</p> <p>ウ</p> <p>・年間を通じ授業規律は守られ、安全安心な学習環境を整えることができた。 積極的な発言を促すため、従来の静かに聞く授業が好みの生徒にとっては厳しい評価。 学習環境への肯定率69.1% 規範意思への肯定率95.3% (○)</p> <p>(2)</p> <p>ア</p> <p>積極的な情報発信に努め、生徒の満足度と受験希望者への増加につながった。 ・満足度76.4%(△) ・情報発信数12/12 (○)</p> <p>イ</p> <p>CM会議で、部活相互の連携を図り、学校全体としてのさまざまな取り組みを運営した。しかし、入部率向上にはつながらなかった。 ・入部率48.5% ・CM会議20回実施 ・部活体験会3回実施 ・部活交流会参加者73人 (△)</p> <p>ウ</p> <p>人権侵害に当たる事象は生起していない。 ・人権意識肯定率85.7% ・教員人権研修1回 (○)</p> <p>(3)</p> <p>ア</p> <p>正門での自主的な挨拶の機会が増加した ・自己診断の「あいさつ」の項目89.2% ・あいさつ運動実施80日 (○)</p> <p>イ</p> <p>コロナ禍での実施は厳しい ・教育旅行受け入れなし ・海外派遣0名(△) ・海外の高校とのオンライン交流1回(△) 手紙での交流を一度</p>
------------------------------------	---	--	--	---

## 府立枚方津田高等学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">3 学校力・教員力の向上と働き方改革に向けた取り組み</p>	<p>(1) 授業改善の促進 ア 主体的、対話的で深い学びを実践する授業の実現</p> <p>イ ICT 機器の利活用スキルの向上</p> <p>(2) 津田高の魅力発信と地域連携 ア 学校説明会等の充実</p> <p>イ 地域イベントへの参加</p> <p>ウ 多様な情報発信ツールの活用</p> <p>(3) 働き方改革への取り組み</p>	<p>(1) ア・授業見学週間の実施により主体的、対話的で深い学びを実践する授業を促進する。 ・授業変革のためのミドルリーダー育成のため講習会を校内にて実施</p> <p>イ・ICT 機器の利活用及び教科活用の促進</p> <p>(2) ア・独自の学校説明会の開催と、入学者出身校を核とした中学校訪問により生徒の活動状況を広報し「行きたい津田高」「伸ばす津田高」をアピールする。</p> <p>イ・地域の行事や近隣の企業等のイベント等に積極的に参加し「地域の中の津田高」を意識することで愛校心を育む。</p> <p>ウ・学校 HP の充実に取り組む。 ・SNS、動画配信サービスによる情報発信を充実する。</p> <p>(3) ア・全校一斉退庁日・部活動休養日の定時退庁を推進し、教職員の業務負担軽減を図る。</p>	<p>(1) ア・年間 2 回の授業見学週間を実施する。 [R03: 2 回] ・主体的、対話的な授業を行っている 実施率 [R03: 76.0%] ・講習会は年 3 回以上実施 [R03: 3 回]</p> <p>イ・ICT 機器の活用研修を月 1 回実施する。 [R03: 15 回] ・ICT 活用に係る情報を、情報便りを通して職員会議の全回数の 8 割以上で共有する。 [R03: 20/21 回]</p> <p>(2) ア・中学校訪問 50 校 [R03: 49 校] ・中学校向け広報紙の発信 (6 回以上) [R03: 4 回]</p> <p>イ・地域の行事等への参加 (6 回以上) [R03: 4 回]</p> <p>ウ・職員会議での情報の共有と生徒、保護者への的確な情報伝達と対応を行う。自己診断(保護者)の「情報提供」の肯定率 80%以上 [R03: 86%] ・学校 HP の閲覧数の増加を図る。 [R03: 153586 回]</p> <p>(3) ア・全校一斉退庁日の退庁率について年間平均で 90%を維持する。 [R03: 94 %]</p>	<p>(1) ア 授業力向上のさらなる意識向上を目標に次年度以降も継続して取り組んで行く・ ・授業見学週間 2 回 ・主体的対話的な授業 94.1% ・講習会 4 回 (○)</p> <p>イ ICT の活用が概ね浸透し、新たなアプリや手法の連絡は、職員会議で行っている。 ・研修実施回数 2 回 ・ICT 情報発信回数 22/22 回 (○)</p> <p>(2) ア 積極的な広報活動で、本校の魅力をしっかりと伝えることができた。学校説毎回参加者数や入学希望調査に肯定的な影響が出ている ・中学校訪問 (62 校) ・広報誌発刊 (4 回) (◎)</p> <p>イ ・地域の行事はコロナの影響で自粛。(△)</p> <p>ウ 年度当初より積極的に取り組み、HP の更新回数や閲覧件数は、昨年度より上昇した ・情報提供肯定率 82.3% (△) ・学校 HP 閲覧数 76002 件 (○) 欠席届を HP 経由で行うため、コロナ過では数値が増える。</p> <p>(3) ア ・学校全体で取り組み、実施に努めたが十分とは言えない。90% (△)</p>
---	--	--	--	---